

山形大学農学部 (H29改組予定)

改組の趣旨・必要性

- ・食料生産、生命科学、環境資源問題などに取り組む、360° 広がる農学のフロンティアが評価され、農学系学部の志願者数は全国的に増えている。
- ・世界的な食糧問題、地球温暖化に伴う食料生産の不安定、日本における食糧自給率の低迷(カロリーベースで39%)、食の安全などの課題を解決するために、農学系人材に対するニーズが高まっている。
- ・「広義の農学」に含まれる食料-生命-環境に関する多面的な諸課題を理解し、複眼的で総合的な判断力やバランス感覚を有した人材の養成が求められている。

改組の特色① 入学定員増

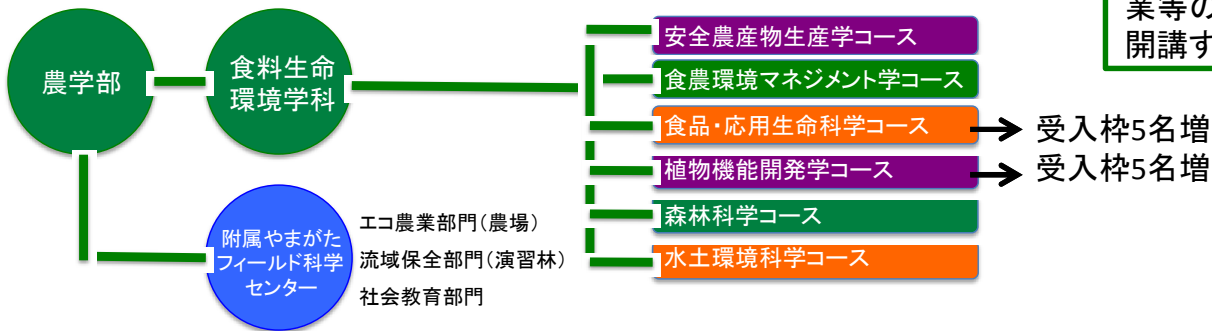
入学定員を現在の155名から10名増の**165名**とする。

学 科	入学定員	募集人員			
		一般入試		推薦入試	私費外国人
		前期日程	後期日程		
食料生命環境学科	165	95	30	40	若干人
合計	165	95	30	40	若干人

改組の特色② 食品関連分野の強化

(1) 食品関連コースの受入枠増

食品・応用生命科学コースと植物機能開発学コースの受入枠をそれぞれ5名ずつ増やし、**30名**とする。



(2) 食関連カリキュラムの充実

これまで卒業後の進路としてターゲットにしていた食品関連企業に加えて、飲料、小売業、医療業、保健衛生、教育学習支援業等の企業で活躍する人材を育成するために、新たに5科目を開講する。

- | | |
|------------|------------|
| ① 「食と栄養」 | 開講期； 1 年前期 |
| ② 「酒類製造学」 | 開講期； 3 年後期 |
| ③ 「食文化論」 | 開講期； 3 年後期 |
| ④ 「食生活の科学」 | 開講期； 4 年前期 |
| ⑤ 「食品学各論」 | 開講期； 4 年前期 |

大学院農学研究科 (修士課程)
 生物生産学専攻
 生物資源学専攻
 生物環境学専攻

改組の目的、養成する人材像

- ・ユネスコ創造都市ネットワーク(食文化分野)への加盟が認められた鶴岡市から、また、北海道、秋田県に次ぐ食料自給率を誇る山形県(食糧自給率136%)から、食に関する情報を日本、世界へ発信する。
- ・「地域創生」、「次世代形成」、「多文化共生」の3つの使命を掲げる山形大学が食をキーワードに地域創生に貢献する人材を育成する。